

町政を問う

鬼関連施設の 今後の維持管理は



中田 壽國

中田 旧溝口町時代において、「まちおこし」の一環として、鬼に関する施設を整備し、多額の投資をしてきた。

町長

恥ずかしくくないような維持管理に努めたい

「鬼の像」は塗装が剥げ、鬼のトイレの外壁なども黒ずんでいる

②おにっこランドは、現在無料開放されているが、休日でも来園者は非常に少ない。

平成九年に開園以来十数年が経過し、老朽化した遊具は撤去、または使用中止されたままである。

③鬼のトイレ、鬼の電話ボックスの整備について、建物の外壁等が放置されたままであり、塗装の一部は剥げ落ち、黒ずんで汚く色あせている。

他にも町内に四ヶ所設置されている電話ボックスも同様である。

以上三点について、今後このような状態で維持管理を続けられるのか伺う。

町長 これらの施設については、恥ずかしくくないように維持管理をする。しかし、再投資は考え

ていない。

現状を点検した後、評価して費用負担が必要であるか検討したい。

ハードのものは経年劣化していくので今後の設備投資は考えていきたい。ソフト面については、鬼面太鼓など充実されている。



鬼のトイレ・電話ボックス（溝口インター）

交通安全施設の整備について

中田 ①伯耆町型バス事業により、小学校の通学がバス通学となったが、バスの停車場が確保、整備されていないところが多くある。登校時は朝の通勤時間帯と重なり危険である。

特に二部小学校の登校時、溝口方面からの生徒が下車する浦部宅前バス停は広場も歩道もなく、大変に危険である。

②歩道の整備について、主要地方道、西伯根雨線は間地トンネルの開通以来、年々自動車の通行が増加し、地域の方々には危険にさらされている。

また、日野溝口線との交差点において、歩道が途切れており直進できない状態である。

交通安全上からも歩道の整備を早急を実施する必要があるので。

以上二点について伺う。
町長 県道改良について、県に要望しているが、緊急性のあるものについては事業実施をする。

また、通学バスの経路についても検討したい。歩道についても、県に對し要望をしている。